

小児看護学実習	3 年・前期	2 単位 2 週間	講師 宮澤 由佳 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210763

1. 授業のねらい・概要

発達段階、健康段階の異なる子どもが生活する 2 施設（認定こども園、病棟）で実習を行なう。成長・発達の過程にある子どもとその家族の特徴を理解し、健康障害や発達障害があること、治療を受けることや病院に入院することが、子どもと家族にどのような影響を与えるのかを考える。さらに子どもと家族を全人的にとらえ、それぞれの健康レベルに応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

2. 到達目標

1. 子どもの特性を日常生活の中で理解し、成長発達に応じた関わりができる。
2. 子どもの健康障害や発達障害とそれに付随する環境の変化が子どもや家族に及ぼす影響について理解できる。
3. 入院治療が必要な子どもとその家族の看護上の問題に着目し、根拠に基づいた援助を考察することができる。
4. 子どもを取り巻く保健・医療・福祉・教育の連携の必要性を理解し、小児看護の役割を理解できる。
5. 施設や対象に応じた安全行動や感染予防行動をとることができる。
6. 子どもと家族の最善の利益のために看護が果たす役割について考察し、肯定的な子ども観を育成することができる。

3. 授業の進め方

実習要項を参照

4. 授業計画（実習/実技）

1. 実習期間：3 年次前期に 2 週間
2. 実習施設：【認定こども園】上武大学附属幼稚園
【病院】国立病院機構渋川医療センター，群馬大学医学部附属病院，群馬中央病院
3. 実習内容：実習要項参照

5. 成績評価の方法・基準

臨地実習 80%，知識確認試験 20%とし、それぞれが 60%以上を満たすことで合格とする。臨地実習の評価は、小児看護学実習評価表に基づいて評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：小児看護学の各科目で使用したテキスト。
参考文献：小児看護学の各科目で紹介した文献や配布資料など，その他適宜紹介する。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的学習内容

小児看護学領域の授業，看護過程および基礎看護技術を復習し，実習要項で定める事前学習課題を行っておくこと。

8. 受講上の留意事項

先修条件：疾病論Ⅳ，小児看護学概論，小児看護学方法論Ⅰ，小児看護学方法論Ⅱ
必要な感染症対策ができていない者は履修できないことがある。
提出された事前学習課題が不足している場合には，履修できないことがある。

9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は，教員が内容を確認し，内容に不備があるものは再提出を求める。
試験実施後口頭で解答解説を行うか，解答を掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，実習を行う。